

啓言

戒心の強さは生き物の種類ごと、地域ごと、さらには一匹ずつ違います。いずれにしても、簡単に近づいて撮影できる野生生物はいません。特にオオワシやオジロワシの警戒心はとて強いです。翼を広げると2mを超すこの大型のワシたち。「一体その巨体で何をそこまで恐れているんだろう…」と毎回思います。

マイナス15℃の中、10時間ワシを待つ

ワシの警戒心の強さを嫌というほど味わったことがあります。それは、繁殖を終えて力尽きたサケをワシが食べるところの撮影を試みたとき。私は、ワシの警戒心が強いことを知っていたので、撮影の一週間ほど前から自分の姿を隠すためのテントを川岸に設置して、テントがあることに慣れてもらおうとしました。撮影当日も、夜明け前からテントに入り、私の姿は見せないよう細心の注意。最低気温マイナス15℃の中、極力身動きせず、日没までとにかく待ち続ける日々を繰り返しました。



撮影者の姿を隠すため川岸に設置したテント



木の上から降りてこないオオワシ

ワシと「らめつ」

突然ワシは「やーめよっ」と言わんばかりに、飛び立ってしまおうでした。この冬もトライする予定のワシ撮影。この記事が皆さんが読む頃には撮影に成功しているだろうか。

テントから外を眺めていると、たまにワシが上空を旋回するのが見えます。「サケはたくさんいるけれど、なんか怪しい物体（テント）もあるなあ」とでも考えているのでしょうか。多くはそのまま通過してしまいます。サケが転がっている場所はここだけではありません。ワシにとっては、わざわざ危険を犯してまでテントの近くで食事をする必要

VOL. 8

「警戒心」

トガリネズミラヴァー 六田晴洋の 私たちの ご近所さん



PROFILE 六田晴洋

ろくたはるひろ 1986年生まれ。2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
E-mail rokuta@six-h.com